

Kansai Economic Insight Monthly

2016/11/22

Vol.43 October/November

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh Nguyet (各 APIR 研究員) 及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	14
Release Calendar	15

要 旨

- 足下の景気は緩やかな減速も、先行きは回復を見込む※ -

- ✓ 9月の鉱工業生産指数は前月比2カ月連続のプラス。結果、7-9月期は3期連続のプラスも、伸びは前期より縮小した。
- ✓ 10月の輸出は13カ月連続の前年比マイナス。輸入は14カ月連続の同マイナス。結果、貿易収支は9カ月連続の黒字となった。
- ✓ 10月の消費者態度指数は収入の増え方や、暮らし向き指標の低下から、3カ月ぶりの悪化。一方、景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月ぶりに改善。冬物商材の売上増への期待は高いものの、不透明感が強く、先行き判断DIは4カ月ぶりに悪化した。
- ✓ 7月の関西2府4県の現金給与総額は2カ月ぶりの低下。8月の「関西コア」賃金指数も2カ月連続で下落した。賃金は伸び悩んでいる。
- ✓ 9月の大型小売店の販売額は2カ月連続の前年比マイナス。百貨店は9カ月連続、スーパーは2カ月連続の減少である。猛暑や台風等で衣料品、農産品の消費が減少した。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比マイナス。10月のマンション契約率は2カ月ぶりに70%台を上回った
- ✓ 9月の有効求人倍率は2カ月ぶりの小幅上昇。新規求人倍率も2カ月連続で上昇。完全失業率は2カ月ぶりに小幅低下しており、雇用情勢は好調が続く。
- ✓ 10月の公共工事請負金額は4カ月ぶりの前年比マイナス、季節調整値でみれば3カ月連続のマイナス。
- ✓ 10月の関空への訪日外客数は前年比+10.5%と45カ月連続のプラスで依然高水準を維持している。しかし、最近では中国からの訪日客の減少により、伸びは減速している。
- ✓ 中国10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は2カ月ぶりの改善。9月のリコノミクス指数(APIR試算)は10カ月連続で改善している。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦リサーチリーダー)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI, 試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

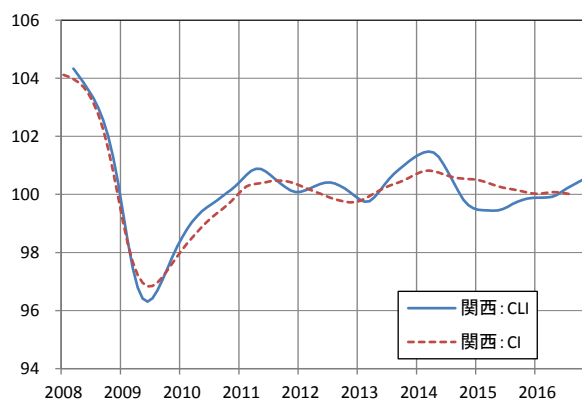
	2015年			2016年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗
消費	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↘	
住宅	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	
公共工事	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘
中国	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗

(※トレンドの判断基準)

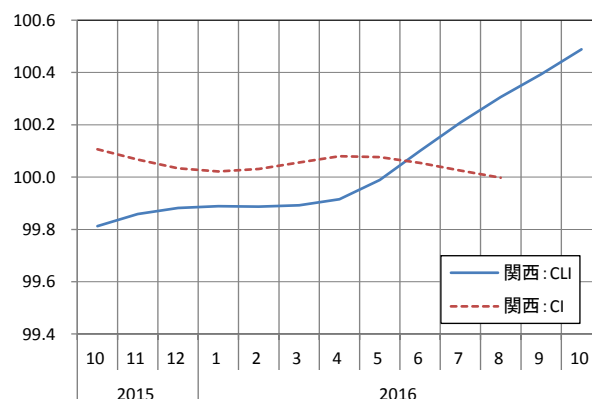
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から 500 億円以上の改善は上向き、同 500 億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DI が前月比で 1 ポイント以上の改善は上向き、1 ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で 1%以上増加していれば上向き、同 1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で 0.01 ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01 ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・試作 CLI)の推移】

CI 一致指数・試作 CLI の推移(2008 年 1 月～2016 年 10 月まで)



直近 1 年間の推移(2015 年 10 月～2016 年 10 月まで)



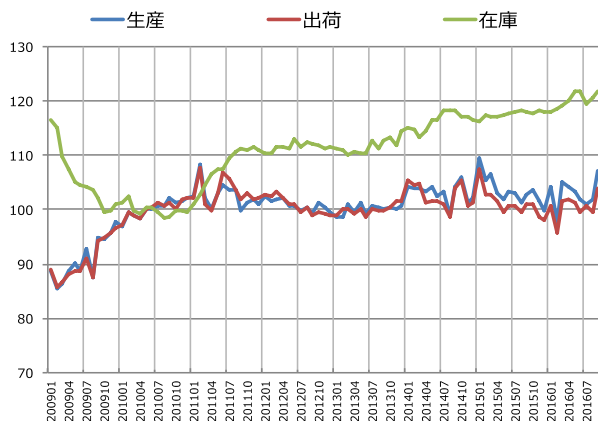
【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

2016年9月の鉱工業指数(速報値:季節調整済, 2010年=100)を見ると、生産は107.2で前月比+5.3%と大幅上昇し、2カ月連続のプラス。出荷は104.0で同+4.3%と2カ月ぶりの上昇。在庫は121.8で同+1.0%と2カ月連続の増加となった。結果、7-9月期の生産は前期比+0.2%と3期連続のプラスも、伸びは前期(+0.8%)より縮小した。なお、生産と強い関係がある9月近畿の実質輸出は前月比-0.7%と2カ月ぶりの減少。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+30.5%、4カ月ぶり)、窯業・土石製品(同+6.9%、2カ月ぶり)、化学(除.医薬品)(同+1.3%、2カ月連続)等が増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-11.9%、4カ月ぶり)、電気機械(同-3.0%、5カ月ぶり)、繊維(同-3.8%、2カ月ぶり)等が減産。なお、業種別の寄与度を見ると、はん用・生産用・業務用機械が+5.3%ポイントと、生産指数の伸びを大きく押し上げている。

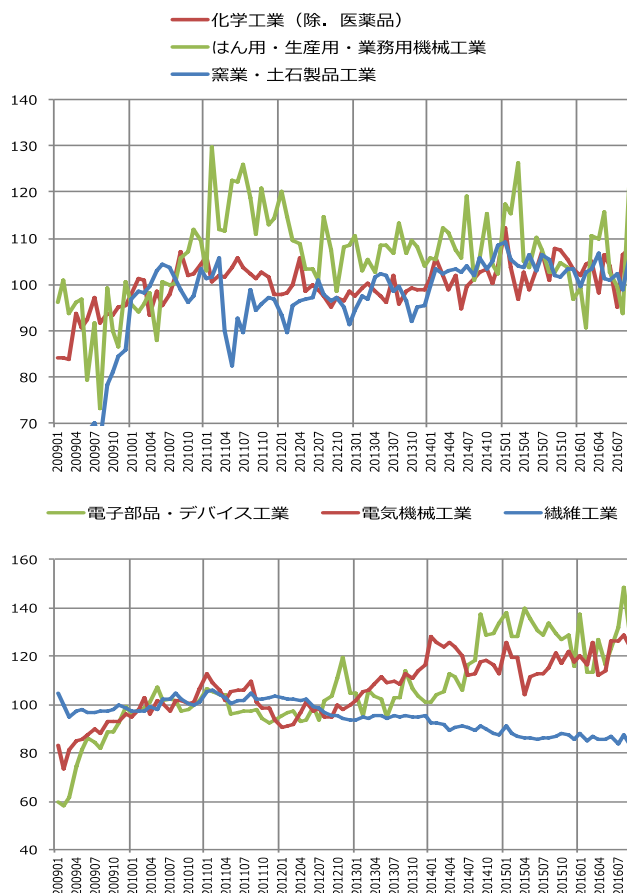
鉱工業指数の推移(関西:2016年9月まで、2010年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西:2016年9月まで、2010年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

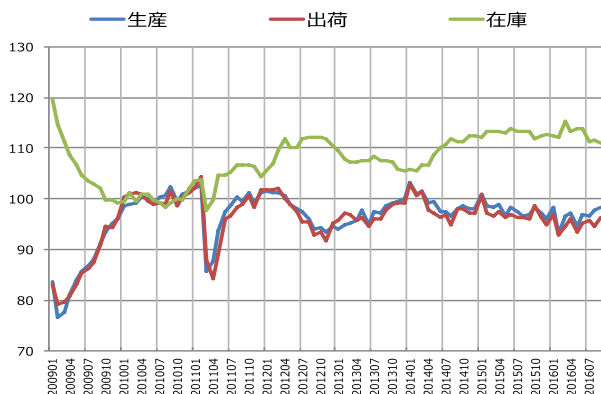
(2) 全国の生産動向

全国における9月の鉱工業指数(速報値:季節調整済, 2010年=100)を見ると、生産は98.4となり前月比+0.6%と2カ月連続の上昇。出荷は96.4で同+1.8%と2カ月ぶりの上昇。在庫は110.9で同-0.5%と2カ月ぶりの下落。

業種別にみると、輸送機械(前月比+4.5%)、はん用・生産用・業務用機械(同+3.8%)、化学(同+0.5%)等を中心に増産となった。一方、情報通信機械(同-11.8%)、電子部品・デバイス(同-2.7%)、金属製品(同-3.6%)等は減産となった。

速報値公表時に発表された製造工業生産予測調査によれば、10月は前月比+1.1%、11月は同+2.1%といずれも増産となっている。予測調査は実績よりも下振れることが多く、今後の生産動向については緩やかなものととどまろう。

鉱工業指数の推移（全国：2016年9月まで、2010年=100）



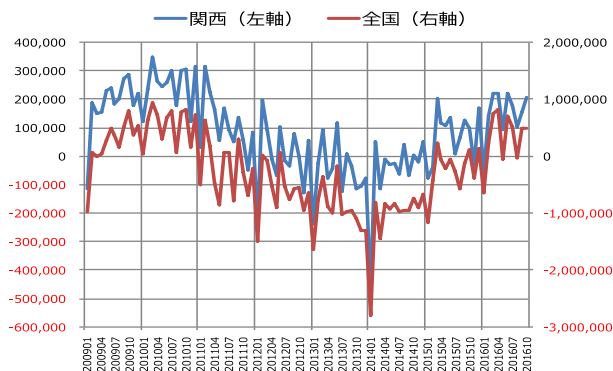
（出所）経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

（1）純輸出

貿易概況(速報値)によれば、10月関西の貿易収支は+2,055億円と9カ月連続の黒字となり、貿易収支は前年同月比+105.3%と5カ月連続で拡大した。全国の貿易収支(速報値)は+4,962億円と2カ月連続の黒字となり、前年同月比+373.5%拡大した。前年と比べて依然大幅な円高が進行し輸出減が続いている一方で、原油の大幅下落もあり、輸入減が輸出減を上回る状況が続いている。結果、関西、全国の貿易収支は黒字となった。

関西・全国の貿易収支の推移：(百万円、2016年10月まで)



（出所）大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

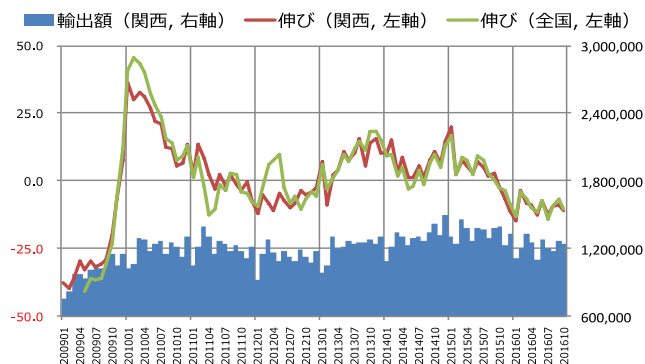
（2）輸出

関西10月の輸出額(速報値)は1兆2,456億円。前年同月比-10.9%と13カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、原料品の輸出が減少した。

全国10月の輸出額(速報値)は5兆8,699億円、前年同月比-10.3%と13カ月連続の減少。財別に見れば、自動車、鉄鋼、鉱物性燃料の輸出が減少。

同月の為替レート(税関長公示レートベース)は102.40円で前年同月比+14.7%と9カ月連続で円高に振れた。

関西・全国の輸出の推移(百万円、前年同月比、2016年10月まで)

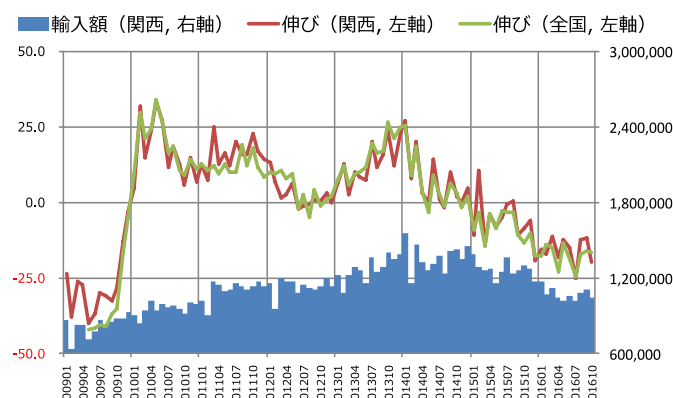


（出所）大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

（3）輸入

関西10月の輸入額(速報値)は1兆401億円、伸びは前年同月比-19.9%と14カ月連続の減少。財別に見れば、衣類及び同付属品、科学光学機器が減少した。

関西・全国の輸入の推移(百万円、前年同月比、2016年10月まで)



（出所）財務省「財務省貿易統計」

全国10月の輸入額(速報値)は5兆3,737億円、前年同月比-16.5%と22カ月連続の減少。財別に見れば、原油、液化天然ガス、衣類・同付属品等の輸入が減少している。資源価格は引き続き下落傾向にあるが、下落幅は縮小している。

(4) 関西の地域別貿易

関西 10 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+2,292 億円と 9 カ月連続の黒字となり、貿易収支は前年同月比+60.5%拡大した。5 カ月連続のプラス。輸出は 12 カ月連続の減少(同-9.5%)。財別に見れば、鉄鋼、通信機等が減少した。一方、輸入は 14 カ月連続の減少(同-22.0%)。財別に見ると、衣類及び同付属品、通信機等が減少した。

うち、対中貿易収支は-526 億円と 56 カ月連続の赤字も、赤字幅は前年同月から縮小(同-56.9%)。輸出は 8 カ月連続の減少(同-8.5%)。輸入は 7 カ月連続の減少(同-21.2%)。

対米貿易収支は+789 億円と黒字基調が続いているものの、黒字幅は 4 カ月連続で前年から縮小(同-11.3%)。うち、輸出は 12 カ月連続のマイナス(同-17.8%)。財別に見れば、有機化合物、鉄鋼等が減少した。輸入も 9 カ月連続の減少(同-23.3%)。財別に見れば、医薬品、半導体等製造装置等が減少となった。

対 EU 貿易収支は+131 億円と 2 カ月連続の黒字、貿易収支は前年同月から 303 億円改善した。輸出は 13 カ月連続の減少(同-7.8%)。財別に見れば、プラスチック、電池等が減少。輸入は 8 カ月連続の減少(同-26.0%)。財別に見れば、科学光学機器、バッグ類等が減少した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

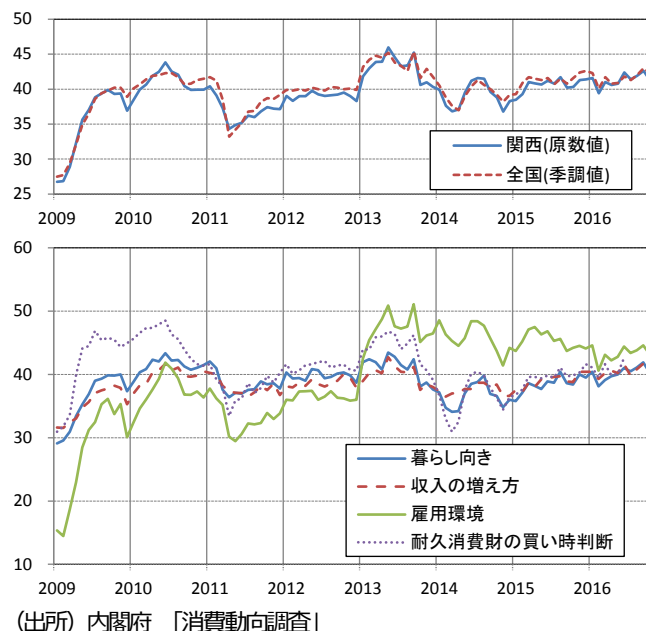
関西の 10 月の消費者態度指数(原数値)は前月比-1.3 ポイント低下し 41.3 となり、3 カ月ぶりの悪化。全国(季節調整値)も同-0.7 ポイント低下し 42.3 となり、こちらも 3 カ月ぶりに悪化した。

全国では 4 つの指標構成項目のうち、全ての指標が前月から悪化。特に、「雇用環境」指標が前月比で-1.4 ポイントと最も低下幅が大きく、次いで「暮らし向き」「耐久消費財の買い時判断」指標がいずれも-0.6 ポイント低下した。背景として、厳しい労働環境に関する一連の報道や、夏場の天候不順による生鮮野菜の価格上昇などが悪化に影響したとみら

れる。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」として据え置いた。

関西の同指数構成項目は、全国と同様 4 指標全てが前月から悪化した。内訳を見ると、「収入の増え方」が同-1.8 ポイントで最も大きく、次いで「暮らし向き」が-1.6 ポイント、「雇用環境」が同-1.4 ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同-0.4 ポイント(いずれも 3 カ月ぶり)それぞれ低下した。全国と比べると、関西では、賃金関連指標の伸び悩みが、消費者心理の悪化につながったとみられる。

消費者態度指数(2016 年 10 月まで)



(2) 景気ウォッチャー指数の動向

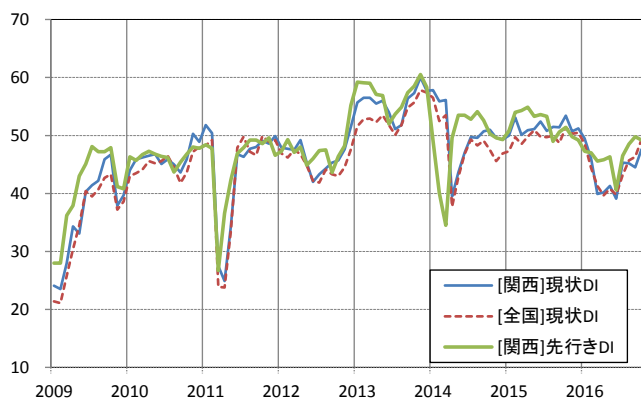
関西の 10 月の現状判断 DI(季節調整値)は 47.6 と前月比+3.1 ポイント上昇し、3 カ月ぶりの改善となったが、景況感の良し悪しの分かれ目となる 50 を 10 カ月連続で下回った。全国も同+3.0 ポイント上昇し 49.3 となり、4 カ月連続で改善した。

背景として、生鮮野菜の価格高騰が消費者心理の下押し圧力となったものの、10 月下旬以降気温の低下により、冬物衣料の販売が増加したことや、円安の進行などが景況感を押し上げた。また、関西では 3 カ月ぶりに改善したものの、前

月に引き続き、百貨店やホテルからインバウンド関連消費の減速や客室稼働率の低下に関するコメントが見られる。

また、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では49.2と前月比-0.6ポイント下落し、4カ月ぶりの悪化。今冬は低気温であるとの予想により、百貨店を中心に冬物商材の売上増への期待は高いものの、客単価の減少への懸念など、全体として不透明感が強いことから、先行き見通しは悪化したとみられる。一方、全国は51.4と同+1.5ポイント上昇し、4カ月連続で改善した。

景気ウォッチャー調査(2016年10月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

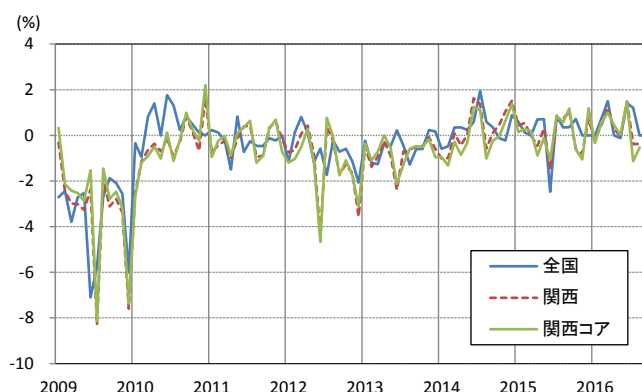
(1) 現金給与総額

7月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は36万8,713円で前年同月比-0.4%となり、2カ月ぶりの低下。府県別では、和歌山県が同+5.2%(2カ月連続)、奈良県が同+4.8%(4カ月ぶり)、滋賀県が同+3.0%(6カ月連続)の上昇。一方、京都府が同-2.6%(5カ月ぶり)、大阪府が同-1.0%(2カ月ぶり)、兵庫県が同-0.7%(2カ月ぶり)の下落となった。また、8月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同-0.5%と2カ月連続で下落した。賃金は伸び悩んでいる。

全国(確報値)の現金給与総額をみると、9月は前年同月比で2カ月連続の横ばいとなり、速報値(+0.2%)と比較して小幅下落。内訳をみると、所定内給与は同+0.2%と3カ月

連続のプラス。所定外給与は同-1.2%と4カ月連続のマイナス。特別給与は同-3.5%と2カ月連続のマイナス。また、現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同+0.8%と8カ月連続で上昇した。特別給与の減少が全体を押し下げているが、所定内給与が小幅ながら安定して伸びていることは好材料である。

現金給与総額(前年同月比：％、2016年9月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

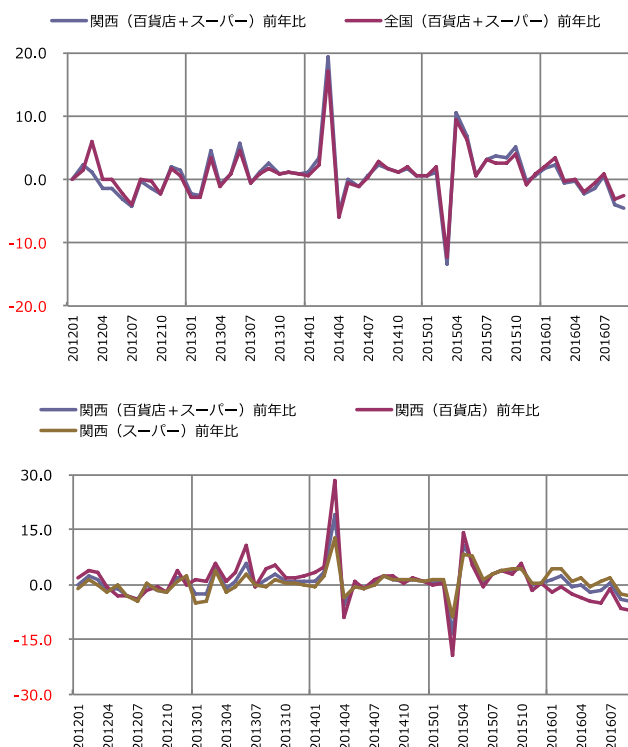
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(2) 大型小売店販売額

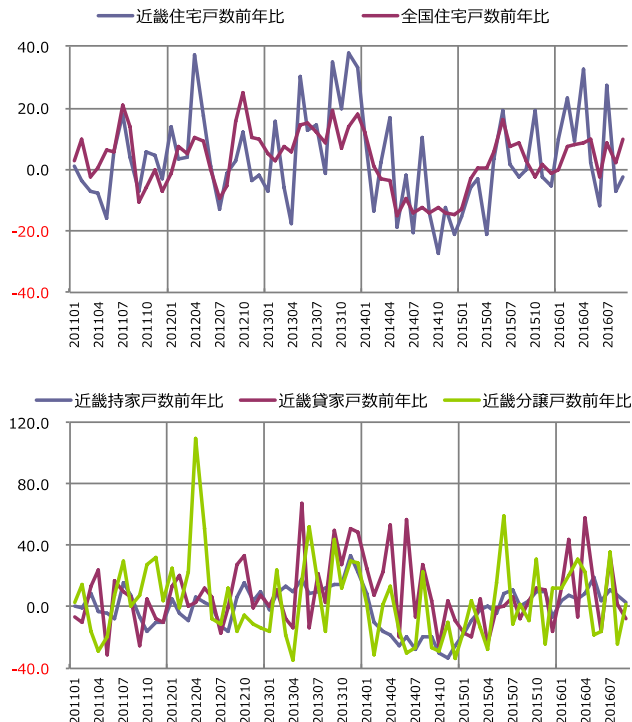
関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-4.6%と2カ月連続のマイナス。百貨店は同-7.0%減少し(前月同-6.3%)、9カ月連続のマイナス。スーパーは同-3.1%(前月同-2.7%)と2カ月連続のマイナス。猛暑の影響により秋物の衣料が苦戦したほか、台風や天候不良による農産品の価格高騰が響いた。関西の大型小売店販売額は、百貨店が引き続き減速が続いていることに加え、スーパーのマイナスも重なり、消費動向は停滞感が強まっている。

全国9月の大型小売店販売額(全店ベース)は前年同月比-2.7%と2カ月連続のマイナスとなっている。

大型小売販売額(前年同月比：％、2016年9月まで)



新設住宅着工戸数(前年同月比：％、2016年9月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

(3) 新設住宅着工の動向

関西9月の新設住宅着工戸数は11,435戸。前年同月比-2.2%となり、2カ月連続の減少。全国は85,622戸と同+10.0%増加し、3カ月連続のプラス。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は3,193戸。前年同月比+2.5%と9カ月連続のプラス。貸家は4,803戸、同-7.5%と3カ月ぶりの減少。分譲は3,417戸、同+1.2%増加し、2カ月ぶりのプラス。

10月の関西マンション契約率は70.9%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる70%を2カ月ぶりに上回った。首都圏は64.0%(季節調整値、APIR 推計)と2カ月ぶりに70%を下回った。

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

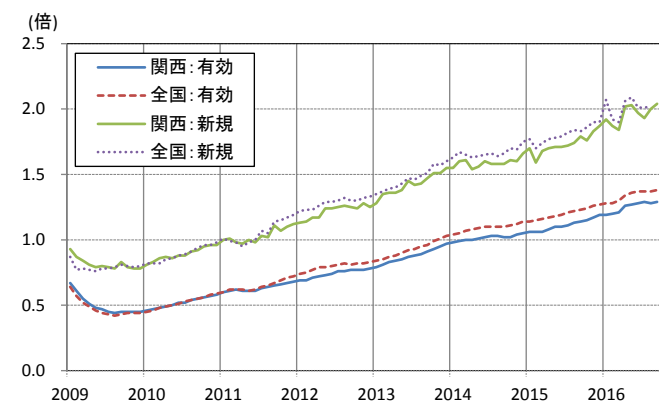
9月の関西の有効求人倍率は、1.29倍で前月比+0.01ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの上昇。依然高水準が続いている。また、9月の全国は1.38倍と2カ月連続の横ばいの後、3カ月ぶりの小幅上昇となった。雇用情勢は好調である。

有効求人倍率を府県別にみると、奈良県で前月比+0.02ポイント上昇。滋賀県、大阪府では前月比横ばい。京都府、兵庫県、和歌山県では同-0.01ポイント小幅下落した。

9月の関西の新規求人倍率は、2.04倍で前月比+0.04ポイントと2カ月連続の上昇。2カ月連続で2倍を超えた。全国は2.09倍と同+0.07ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の改善。

9月の関西の産業別新規求人数をみると、生活関連サービス業、学術研究・専門技術サービス業、医療・福祉で前年同月と比べて大幅に増加した。

求人倍率の推移(季節調整値、2016年9月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2016年9月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.38	1.29	1.18	1.32	1.40	1.14	1.13	1.18
8月	1.37	1.28	1.18	1.33	1.40	1.15	1.11	1.19

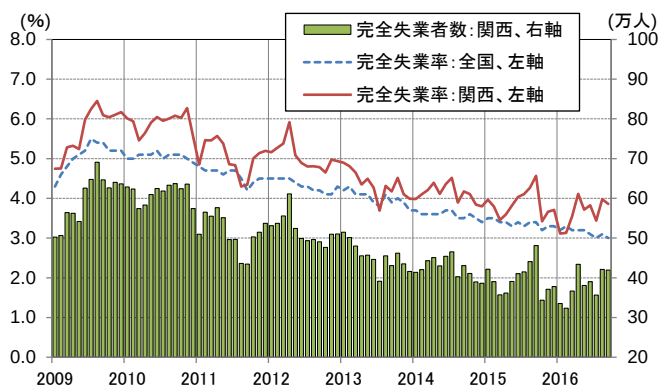
(2) 完全失業率の推移

9月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は3.9%で前月比-0.1%ポイント低下し、2カ月ぶりの改善。前月に引き続き、労働力人口と就業者数がともに増加しており、雇用環境は堅調が続いている。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は42.0万人で前月から-0.1万人小幅減少。2カ月ぶりに改善した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.0%となり、前月比-0.1%ポイント小幅改善した。

完全失業率の推移(季節調整値:2016年9月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

9月の全国の完全失業者数(季節調整値)は202万人で前月から-8万人減少。理由別にみると、非自発的な離職が-1

万人、自発的な離職(自己都合)が-3万人減少した。

【公共投資】

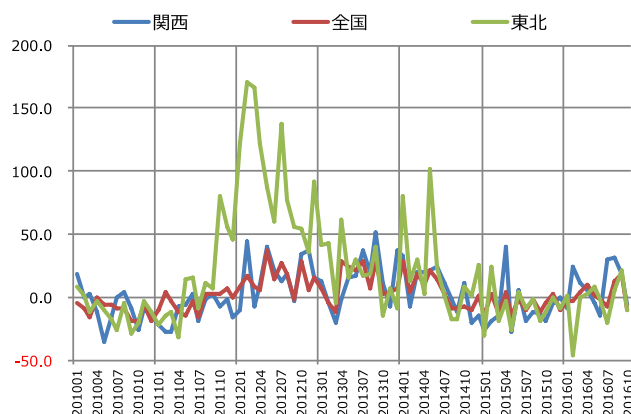
(1) 公共工事請負金額

関西10月の公共工事請負金額は1,163億円で前年同月比-5.5%と4カ月ぶりの減少。全国は1兆1,273億円で同-10.0%と3カ月ぶりの減少。東北は2,026億円で同-9.6%と3カ月ぶりのマイナス。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国ともに大幅減少となり、関西は3カ月連続のマイナス。全国は2カ月連続のマイナスとなった(関西:同-19.2%、全国:同-21.9%)。

公共工事請負は減速してきている。

公共工事請負金額(前年同月比:%, 2016年10月まで)



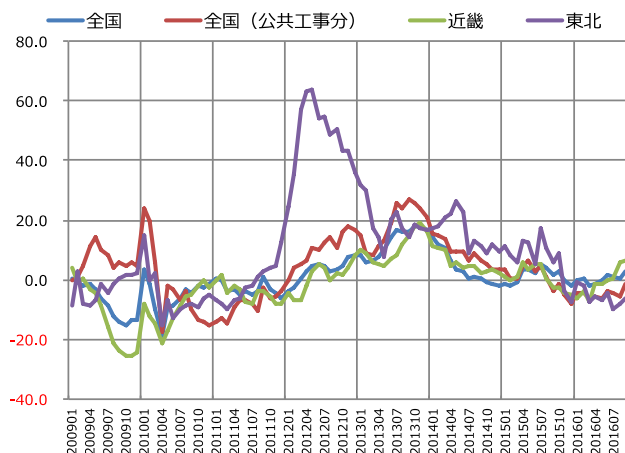
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西9月の建設工事は5,557億円、前年同月比+6.7%と3カ月連続の増加。東北は5,700億円、同-6.2%と11カ月連続の減少。全国は4兆5,291億円となり、同+2.9%と5カ月連続の増加。全国の建設工事では持ち直しが続く一方、東北は停滞が続いている。

うち、全国の公共工事は1兆8,378億円で同-1.5%と13カ月連続のマイナス。公共工事は依然マイナスが続いているが、減少幅は前月(同-5.7%)から縮小した。

建設工事(前年同月比: %、2016年9月まで)



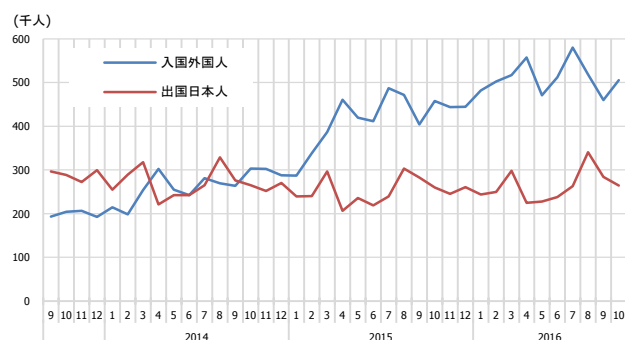
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

10月の関空への訪日外客数は50万5,750人となり、前年同月比+10.5%と45カ月連続のプラスとなった。伸びは依然2桁を超える高水準を維持している。また、外国人旅客総合数(出入国含む)は100万8,220人と同+9.6%のプラスとなった。出国日本人数は26万4,650人で、伸びは同+1.8%と5カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数(人、2016年10月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

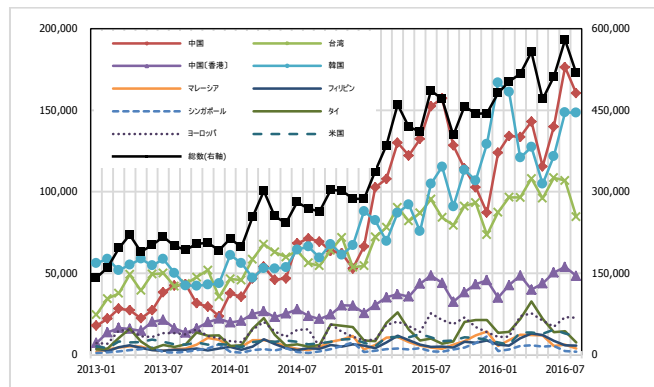
訪日外客数を地域別にみると、8月は中国(香港を除く)からの入国者数が16万473人と最も多く、前年同月比+2.1%と3カ月連続のプラスとなった。次いで、韓国が14万8,550人(同+28.8%)、台湾が8万4,714人(同+0.5%)、中国(香

港)が4万8,333人(同+9.6%)であった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが7,639人(前年同月比+11.7%)、フィリピンが5,649人(同+11.4%)、マレーシアが3,753人(同+5.1%)、シンガポールが1,837人(同-4.3%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパが2万2,708人(前年同月比+6.9%)、米国が1万1,273人(同+36.3%)であった。

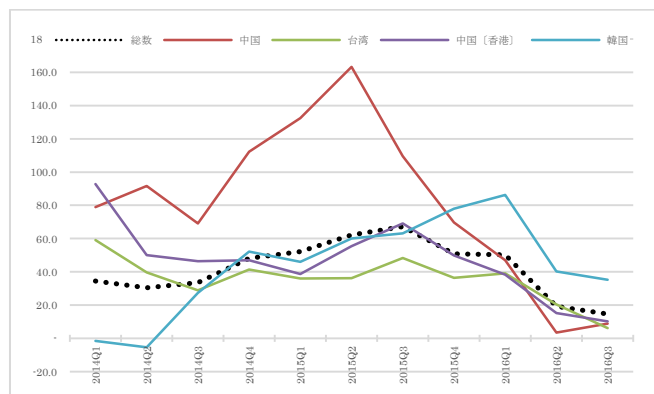
地域別訪日外客数(2016年8月: 人、右軸: 総数、左軸: 各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

地域別訪日外客数自体は増加しているものの、伸びは減速している。四半期で見ると、ピークであった2015年7-9月期には前年同期比で+67.4%であったが、2016年4-6月期は同+19.3%、7-8月平均では同+21.0%まで減速している。

地域別訪日外客数の成長率(%、2016年7-8月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

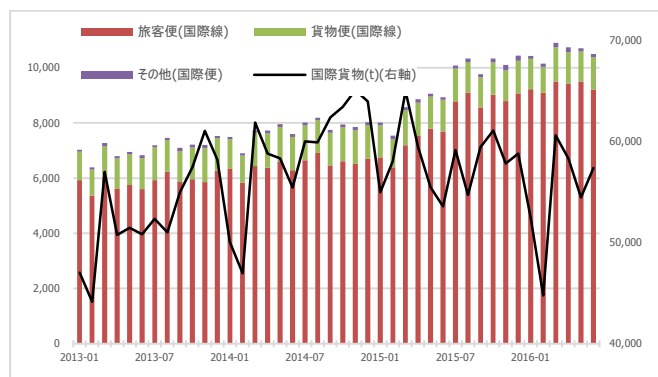
伸びが減速している最も大きな要因は、中国からの訪日客数の減少である。特に、2014年10-12月期から4カ月連続で伸びが100%を越えていたが、2016年に入り、4-6月期

には同+3.6%、7-8 月平均では+15.4%となっており、以前と比較して伸びは減速している。

(3) 旅客・貨物便数トレンド

9 月の総合便数(旅客・貨物合計)は 1 万 688 便となり、前年同月比+9.5%と 36 カ月連続で増加した。うち、国際線旅客便数は 9,393 便(同+9.8%)と 36 カ月連続の増加。国際貨物便は 1,152 便(同+4.4%)と、2 カ月連続の増加。その他は 143 便(同+36.2%)で 7 カ月連続の増加であった。また、貨物便を重量ベースで見ると、9 月は 6 万 4,207 トンとなり、同+8.0%と 2 カ月連続の増加となった。

国際便数(左軸)・貨物(右軸)(2016 年 9 月まで)



(出所) 新関西国際空港株式会社「運営概況ニュースリリース」

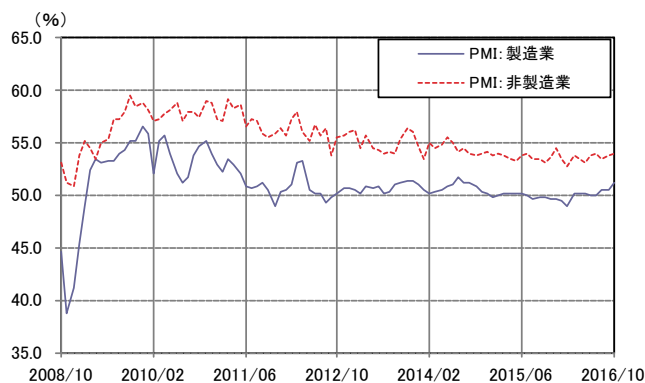
【中国景気モニター】

(1) センチメント

10 月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は 51.2 となり、伸びは前月(50.4)から+0.8 ポイント上昇し、2 カ月ぶりのプラス。一方、非製造業購買担当者景況指数は 54.0 となり、伸びは前月(53.7)より+0.3 ポイント上昇し、2 カ月連続のプラス。

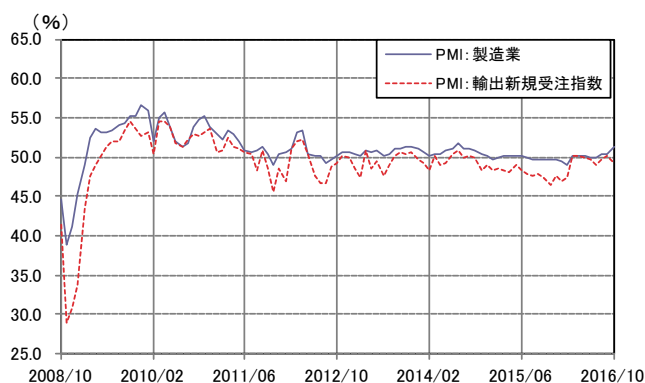
製造業 PMI のうち、生産指数は 53.3 となり、前月比+0.5 ポイント上昇し、3 カ月連続のプラス。一方、輸出新規受注指数は 49.2 となり、同-0.9 ポイント下落し、3 カ月ぶりのマイナス。雇用指数は 48.8 となり、伸びは同+0.2 ポイント上昇し、4 カ月連続のプラス。

中国非製造業購買担当者景況指数(2016 年 10 月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2016 年 10 月まで)



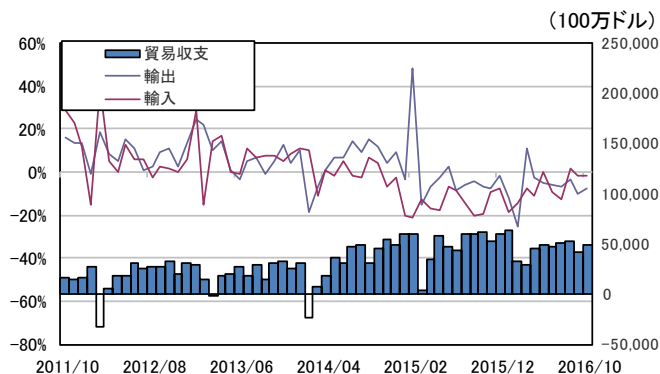
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

10 月の貿易収支は+490.6 億ドルで、32 カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月より 125.9 億ドル縮小した。黒字幅は 3 カ月連続で縮小している。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は 1,781.8 億ドルとなり、同-7.4%減少し、7 カ月連続のマイナス。輸入額は 1,291.2 億ドルとなり、同-1.2%減少し、2 カ月連続のマイナス。

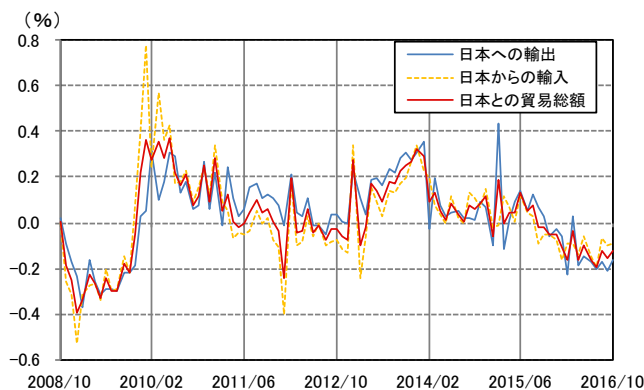
また、対日貿易収支は-10.1 億ドルとなり、9 カ月連続の赤字となった。うち、対日輸出額は 110.8 億ドルとなり、前年同月比-3.3%と 2 カ月連続の減少。一方、対日輸入額は 120.8 億ドルとなり、同+5.4%と 3 カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-16.4%と、7 カ月連続のマイナス。また、対日輸入額は同-8.8%と、14 カ月連続のマイナスであった。

中国の貿易動向 (前年同月比: ドル・ベース) (2016年10月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比: 円ベース) (2016年10月まで)

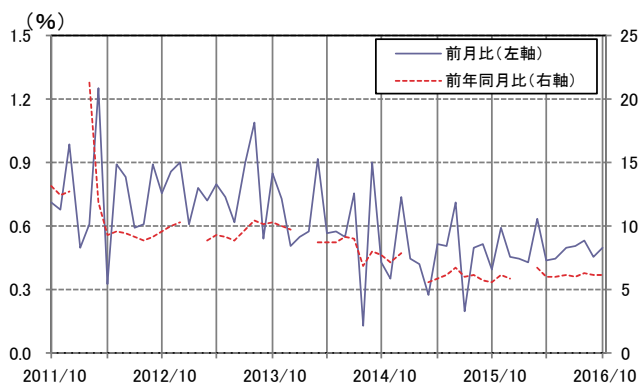


(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.5%となり、前月(+0.46%)から+0.04%ポイント上昇した。また、前年同月比では+6.1%となり、前月から横ばい。

工業生産指数(2016年10月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

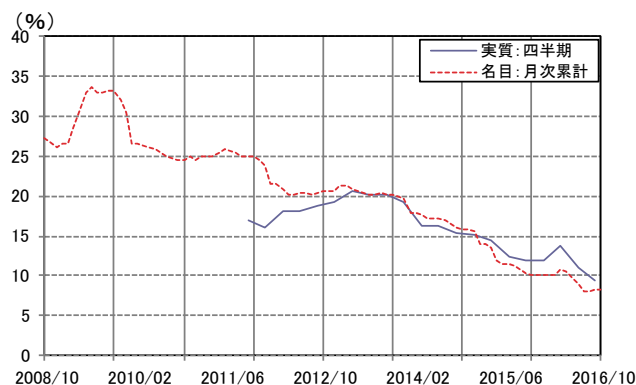
産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+17.9%)、医薬製造業(同+11.3%)、パソコン・通信設備製造業(同+9.3%)などが高い伸びを示す一方で、有色金属圧延加工業(同+3.4%)、鉄道・輸送機器製造業(同+2.4%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、鉄鋼などの精練・圧延加工業(同-3.3%)が3カ月連続で減産となった。

(4) 固定資産投資

1-10 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+8.3%となり、伸びは1-9 月期(+8.2%)より+0.1%ポイント小幅上昇した。

産業別に見ると、第1次産業は前年同月比+22.0%となり、伸びは前月(同+21.8)より+0.2%ポイント上昇し、3カ月連続の改善。第2次産業は同+2.9%となり、前月(同+3.3)から-0.4%ポイント低下し、2カ月ぶりの下落。一方、第3次産業は同+11.5%となり、伸びは前月(同+11.1%)から+0.4%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。

固定資産投資 (2016年10月まで) (累積伸び率)

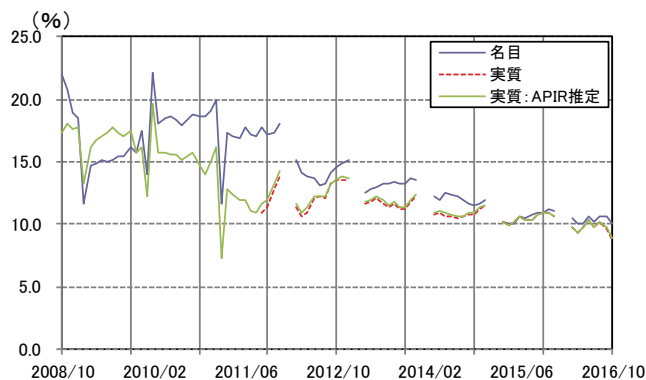


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

10月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.0%となった。伸びは前月(同+10.7%)より-0.7%ポイント低下し、3カ月ぶりの減速となった。

社会消費品小売総額成長率の推移 (2016 年 10 月まで)



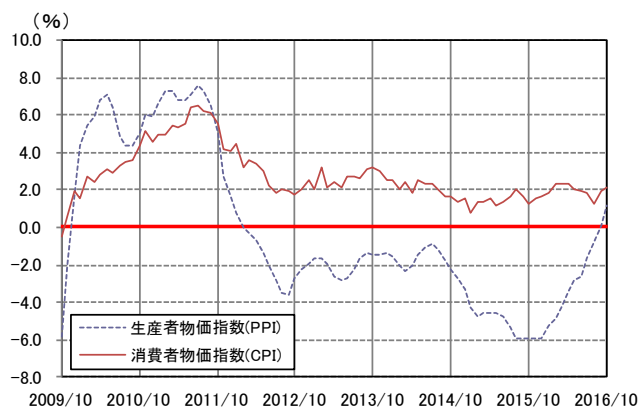
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

10 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.1%上昇し、伸びは前月(+1.9%)から+0.2%ポイント上昇した。2 カ月連続のプラス。また、生産者物価指数(PPI)は同+1.2%となり、前月(+0.1%)より+1.1%ポイント上昇し、2 カ月連続のプラスとなった。

消費者物価指数と生産者物価指数(2016 年 10 月まで : %)

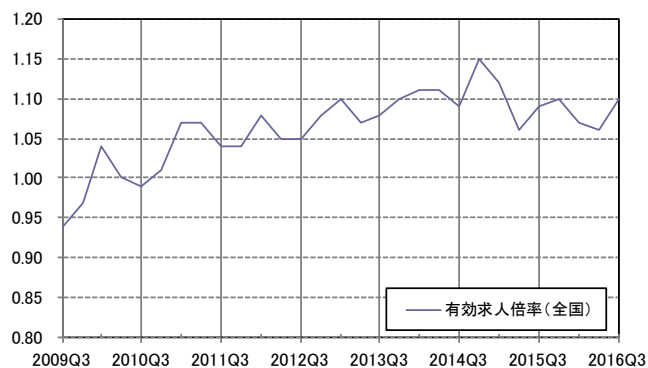


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 求人倍率

7-9 月期の有効求人倍率は 1.1 倍となり、前期比+0.04 ポイント小幅上昇し、3 期ぶりの改善。求人倍率を地域別に見ると、東部は 1.09 倍で同+0.06 ポイント上昇、中部は 1.07 倍で同-0.04 ポイント低下、西部は 1.18 倍で(同+0.1 ポイント)上昇した。

有効求人倍率(2016 年 7-9 月期まで)

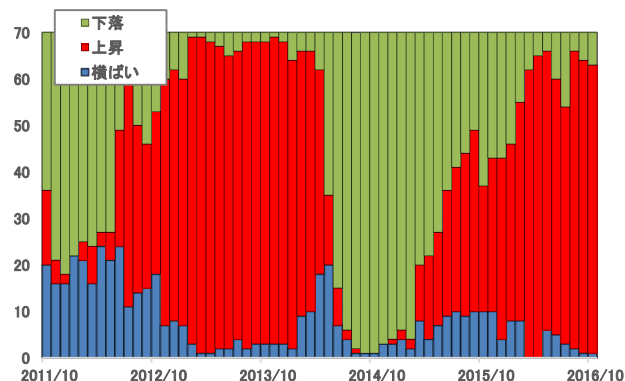


(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

(8) 不動産市場

10 月の不動産市場は、先月より幾分低調であった。不動産価格(新築住宅価格)は、中国主要 70 都市のうち、62 都市で上昇したものの、前月と比較すると、上昇した都市数は 1 都市減少した。また、7 都市で価格が前月から下落し、前月から 1 都市増加した。横ばいの都市は 1 都市となり、前月から横ばいであった。

新築住宅価格の主要都市集計 (2016 年 10 月まで : 都市数)



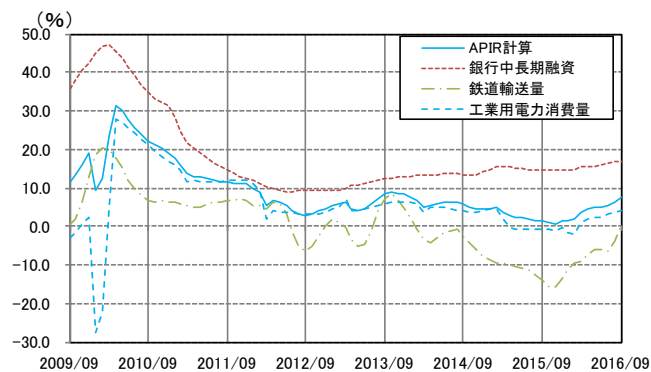
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(9) リコノミクス指数

9 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+7.7%と前月(同+6.4)から+1.3%ポイント上昇し、10 カ月連続の上昇。内訳をみると、銀行中長期融資は同+17.0%となり、伸びは前月から+0.3%上昇した。工業用電力消費量は同+4.1%増加し、7 カ月連続のプラス。鉄道輸送量は同+0.6%

となり、伸びは前月から+4.3%大幅上昇し、32 カ月ぶりの
プラスとなった。

APIR 試算の経済指数とその内訳(2016 年 9 月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh
Nguyet

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	15/10M	15/11M	15/12M	16/1M	16/2M	16/3M	16/4M	16/5M	16/6M	16/7M	16/8M	16/9M	16/10M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	49.9	46.8	49.2	47.1	45.9	44.0	44.1	43.1	40.1	46.9	45.4	43.9	44.5
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	49.5	44.2	45.7	46.8	44.4	42.4	40.7	41.9	38.1	45.4	43.2	41.1	42.3
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	51.4	48.7	48.5	47.9	48.0	46.5	46.7	46.6	41.1	46.1	47.1	44.8	49.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	48.2	46.1	48.7	46.6	44.6	45.4	43.5	43.0	41.2	45.1	45.6	42.6	46.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	48.1	44.4	47.7	45.6	43.2	44.3	42.2	41.9	40.2	44.5	44.1	49.3	44.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	49.1	48.2	48.2	49.5	48.2	46.7	45.5	47.3	41.5	47.1	47.4	48.5	49.0
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	40.3	41.3	41.4	41.6	39.4	41.0	40.6	40.8	42.4	41.4	41.9	42.6	41.3
[関西]〃暮らし向き(原数値)	38.4	40.0	39.5	40.4	38.1	39.1	39.7	40.0	41.0	40.5	41.1	41.9	40.3
[関西]〃収入の増え方(原数値)	38.8	40.4	40.4	40.4	39.3	40.2	40.6	40.2	41.6	39.8	40.8	41.7	39.9
[関西]〃雇用環境(原数値)	44.2	44.5	44.1	44.6	40.6	43.1	42.2	42.8	44.4	43.4	43.8	44.6	43.2
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	39.8	40.3	41.6	41.1	39.5	41.6	39.9	40.1	42.6	41.7	41.9	42.1	41.7
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	41.5	42.6	42.7	42.5	40.1	41.7	40.8	40.9	41.8	41.3	42.0	43.0	42.3
[関西]大型小売店販売額(10億円)	316.4	326.9	412.5	332.9	290.0	318.1	303.1	310.6	303.9	339.6	302.8	284.2	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	5.0	-0.3	0.6	1.6	2.3	-0.6	-0.3	-2.3	-1.5	0.5	-4.0	-4.6	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,607.2	1,650.1	2,092.5	1,691.3	1,488.6	1,646.0	1,545.8	1,597.9	1,567.5	1,721.0	1,554.0	1,470.5	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	4.0	-0.8	0.9	2.1	3.2	-0.2	-0.1	-1.9	-0.7	0.9	-3.2	-2.7	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,872	11,877	11,024	10,581	11,081	11,846	13,050	10,682	12,681	13,028	11,580	11,435	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	19.0	-2.6	-5.2	10.2	23.1	9.4	32.9	2.6	-11.5	27.6	-7.3	-2.2	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	77,153	79,697	75,452	67,815	72,831	75,744	82,398	78,728	85,953	85,208	82,242	85,622	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	-2.5	1.7	-1.3	0.2	7.8	8.4	9.0	9.8	-2.5	8.9	2.5	10.0	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	67.7	68.7	62.6	73.4	76.8	76.6	69.3	61.8	70.4	70.8	73.8	69.1	UN
[関西]マンション契約率(原数値)	68.6	70.2	59.6	67.1	72.0	78.6	70.0	64.5	73.3	74.6	73.8	68.1	UN
[全国]マンション契約率(季節調整値)	71.5	80.6	67.3	60.9	72.9	64.3	66.0	71.1	67.3	60.2	68.9	73.2	UN
[全国]マンション契約率(原数値)	68.8	82.1	64.8	58.6	72.9	67.6	66.4	70.9	69.6	63.3	66.6	72.0	UN
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	123.0	85.4	97.3	64.4	80.0	125.9	279.6	122.7	172.9	175.1	136.4	151.7	UN
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	-18.2	-3.9	0.1	-8.8	24.3	12.0	6.2	-3.8	-13.7	30.1	32.2	18.0	UN
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,253.0	872.0	808.6	653.5	696.8	1,339.5	2,030.1	1,145.3	1,527.8	1,361.8	1,247.3	1,471.6	UN
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	-4.8	3.3	-9.6	-2.6	-2.2	5.0	10.6	1.4	-1.8	-6.9	12.7	18.1	UN
[関西]建設工事(総合、10億円)	540.7	561.0	578.1	564.6	562.6	531.5	461.9	461.4	485.4	485.4	535.8	555.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	-2.8	-4.6	-5.2	-6.0	-3.7	-7.4	-1.3	-0.3	-0.3	-0.3	5.6	6.7	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,642.3	4,712.0	4,732.5	4,611.1	4,520.7	4,423.7	3,589.2	3,553.4	3,786.3	3,786.3	4,209.0	4,529.1	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	2.6	-0.1	-2.1	0.0	0.2	-2.1	-1.2	0.1	1.6	1.6	0.3	2.9	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,067.3	2,132.5	2,160.4	2,093.9	2,032.8	2,003.3	1,362.5	1,296.9	1,402.7	1,402.7	1,620.1	1,837.8	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	-1.5	-5.1	-7.8	-4.3	-4.4	-6.4	-5.8	-6.3	-3.6	-3.6	-5.7	-1.5	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.1	102.5	99.2	104.1	98.9	105.0	104.1	103.3	101.8	100.9	102.0	107.2	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.3	-1.5	-3.0	4.9	-5.0	7.5	-0.9	-0.8	-1.5	-0.9	1.1	5.3	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比)	-4.5	0.0	-3.6	-7.8	-2.1	-0.3	-1.3	3.2	-1.1	-3.3	2.9	3.7	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比)	0.9	0.0	1.1	1.4	1.1	1.8	2.6	3.9	3.5	1.4	2.1	3.2	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.1	99.4	98.2	100.7	95.8	101.5	101.8	101.2	99.7	100.7	99.9	104.0	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	0.5	-2.6	-0.6	2.5	-4.9	5.9	0.3	-0.6	-1.5	1.0	-0.8	4.3	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	118.1	118.6	117.9	117.9	118.6	119.2	120.2	121.7	121.7	119.7	120.8	121.8	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.4	0.4	-0.3	0.0	0.6	0.5	0.8	1.2	-0.2	-1.6	0.9	1.0	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.8	97.9	95.9	98.3	93.2	96.7	97.2	94.7	96.9	96.5	97.8	98.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.4	-0.9	-1.2	2.5	-5.2	3.6	0.5	-2.6	2.3	-0.4	1.3	0.6	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比)	-0.8	0.0	-2.5	-5.4	-1.6	-0.7	-3.4	-1.0	-1.7	-4.0	1.6	0.7	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比)	0.2	0.0	0.0	0.2	-0.9	1.8	0.1	0.8	0.0	-1.8	-1.6	-2.0	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	98.8	96.4	94.9	96.8	92.8	94.5	96.0	93.5	95.1	95.8	94.7	96.4	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	2.1	-2.4	-1.4	2.0	-4.1	1.8	1.6	-2.6	1.7	0.7	-1.1	1.8	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	111.4	111.9	112.7	112.4	112.2	115.4	113.4	113.9	113.9	111.2	111.5	110.9	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.9	0.4	0.4	-0.3	-0.2	2.9	-1.7	0.4	0.0	-2.4	0.3	-0.5	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	-0.6	-0.8	0.7	-0.2	0.5	1.2	0.3	-0.1	1.5	-0.4	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	-0.6	-1.1	1.2	-0.3	0.6	1.0	0.4	0.0	1.5	-1.1	-0.5	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	1.5	0.0	-0.1	1.4	1.2	0.0	0.0	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.4	3.7	3.7	3.1	3.1	3.6	4.1	3.7	3.8	3.4	4.0	3.9	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.6	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	4.0	3.6	3.7	3.6	4.1	3.8	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.0	3.1	3.0	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.76	1.83	1.87	1.92	1.87	1.84	2.02	2.03	1.97	1.93	2.00	2.04	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.86	1.90	1.90	2.07	1.92	1.90	2.06	2.09	2.01	2.01	2.02	2.09	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.15	1.17	1.19	1.19	1.20	1.21	1.26	1.27	1.28	1.29	1.28	1.29	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.24	1.26	1.27	1.28	1.28	1.30	1.34	1.36	1.37	1.37	1.37	1.38	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	100.8	-29.3	167.5	-58.4	139.1	222.4	223.1	93.1	223.6	179.9	100.5	156.6	0.0
[関西]輸出(10億円)	1,398.2	1,237.0	1,338.7	1,110.0	1,199.9	1,337.1	1,261.0	1,102.9	1,281.8	1,199.4	1,177.4	1,263.3	0.0
[関西]輸出(前年同月比)	-1.9	-6.5	-10.8	-14.9	-3.4	-8.4	-8.8	-12.8	-7.3	-12.7	-9.4	-8.9	0.0
[関西]輸入(10億円)	1,297.3	1,266.3	1,171.1	1,168.4	1,060.8	1,114.7	1,037.9	1,009.9	1,058.2	1,019.5	1,076.9	1,106.7	0.0
[関西]輸入(前年同月比)	-8.8	-5.8	-19.3	-15.4	-17.1	-11.4	-18.1	-12.7	-15.3	-25.4	-12.7	-12.1	0.0

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for October/November

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
31-Oct 中国製造業 PMI (10 月)	1-Nov	2-Nov 消費動向調査(10 月)	3-Nov	4-Nov
7-Nov 毎月勤労統計 (9 月:速報値)	8-Nov 中国輸出入 (10 月: 速報値)	9-Nov 景気ウォッチャー調査 (10 月) 近畿鉱工業生産指数 (9 月速報)	10-Nov 近畿貿易統計 (8 月確報) 近畿貿易統計 (9 月確速)	11-Nov
14-Nov 商業動態調査 (9 月:確報値) 全国鉱工業生産指数 (9 月:確報値) 中国固定資産投資 (10 月) 中国工業生産(10 月) 中国消費小売総額 (10 月)	15-Nov マンション契約率 (10 月) 公共工事前払保証額 統計(10 月)	16-Nov	17-Nov 建設総合統計(9 月)	18-Nov 中国不動産市場 (10 月)
21-Nov 全国貿易統計 (10 月:速報) 中国輸出入 (10 月: 確定値)	22-Nov 毎月勤労統計 (9 月:確報値)	23-Nov	24-Nov	25-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9 月確報)
28-Nov	29-Nov 全国貿易統計 (10 月:確速) 商業動態調査 (10 月:速報値) 求人倍率(10 月) 完全失業率(10 月) 近畿貿易統計 (10 月速報)	30-Nov 全国鉱工業生産指数 (10 月:速報値) 新設住宅着工(10 月)	1-Dec	2-Dec